

校長先生の初恋物語

第43話 さよならよしこさん

せっかくのによろひげパワーだったのに、よしこさんの愛のハンバーグを食べるチャンスを自分からすててしまったとつくんは、とてもまずいことになってしまいました。なんと、となりの席のよしこさんが、とつくんと口をきいてくれないのです。完全におこっていました。おりもないです。せっかくとつくんのために愛のハンバーグをつくったのに、とつくんの方から直前になって、ことわってしまったからです。

でも、それだけでは終わりません。によろひげパワーをうらぎると、とんでもないこと次々に起こってしまうのです。遠足が終わって、よしこさんと仲直りができないままだというのに、によろひげ先生がとつぜん、こんなことを言い出しました。

「そろそろ、席替えでもしようかな。」

みんな「やったーっ。」とさけびました。特に、後ろの方から、足長君のうれしそうな声が聞こえてきました。おこっているままのよしこさんまで、とつくんの方をギロリとにらんだあと、手をたたいていました。「まずい。このままよしこさんをおこらせたまま、席がはなれてしまうわけにはいかない。」とつくんはあせりました。

とつくんいがいのすべての人は、席替えに大賛成です。席替えとは、それほど子供たちをわくわくさせるのです。

学級委員の足長君は、すぐに前に来て、席替えのためのくじを作り出しました。によろひげ先生の気が変わらないうちに、どんどん



席替えをやってしまうおうという魂胆です。女の子の学級委員だった、まじめなまじめ子さんも、くじ引き用の箱を準備しました。



とつくんは、よしこさんに、お父さんのことを話そうとしました。でも、よしこさんは、こっちを向いてくれません。こうなったら、再び、よしこさんの隣の席をゲットするしかありません。また隣の席になったら、よしこさんとたくさんお話ができます。そしたら、いつか、ハンバーグのことをしっかり話せます。このまま2人は別れてはいけません。こうしてはいられません。このあと、すぐに席替えのくじ引きが始まってしまいます。その前に、あのによろひげを、さわらないと。授業中でしたが、とつくんは席を離れて、によろひげ先生ところに行こうとしました。

すると、

「とつくん、席についてください。」

と学級委員の足長君にぴしゃっと言われてしまいました。今は、学級委員だけがこの教室で自由に歩けます。くじをつくるという特権を与えられた学級委員だけが、によろひげ先生のところにも近づけるのです。

「まずいっ。」

足長君はとつくんの方を向いて、にやっとなりました。そしてそのあと、によろひげ先生のところへ、完成したくじの紙を持って行きました。そしてその時です。足長君はさっと手を伸ばして、によろひげをさわったのです。

つづく
次回予告
最悪の席

